SDGs新聞	日本調剤株式会社
薬の博士！薬剤師ってどんな人？	

SDGsラジオを読んでみよう！

風邪で病院に行った帰りには、薬局に寄りますよね？その際に薬を渡して、飲み方やその効果の説明をしてくれるのが、薬剤師です。
全国で薬局を運営している「日本調剤」でも、たくさんの薬剤師が活躍しています。薬剤師の仕事はさまざまで、その中のひとつに、
「調剤」という仕事があります。これは患者さんの病気や、治療についての情報をもとに、薬をつくりあげていくことで、
私たちが正しい薬を受け取るために、 欠かせないものです。そして、薬の効果や飲み方について、説明を行うのも大切な仕事です。
きちんとした説明があって、はじめて私たちは正しい薬を、正しい情報のもとで飲むことができるんです。
また、薬剤師が働く場所は薬局に限らず、病院や研究機関などでも活躍し、それぞれの場所から人々の健康に貢献しています。
まさに、私たちの健康を支える薬のプロ。では次に、薬剤師になるにはどうすればいいか？調べてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：「薬剤師の仕事」イメージ画像（日本調剤公式HPより）

「薬剤師」とは、「医療」に関わる職業のひとつで、私たちが病気にかかったり、ケガをしたり
した際に使う「薬」を担っています。全国で薬局を運営している「日本調剤」でも、たくさんの
薬剤師が働いています。その仕事の中のひとつに「調剤」というものがあります。調剤とは、
医師の処方や患者さんの病気や治療についての情報をもとに薬をつくることです。また、
患者さんに薬の効果や飲み方について説明を行うことも大切な仕事です。薬剤師になるため
には、まず専門の大学で6年間、薬学を中心にいろいろな知識を学びます。そして、その後に
国が実施する試験を受けて合格しなければなりません。薬剤師は、人の命にかかわる大事な
責任を持つ仕事だからです。

画像参照：社内研修の様子（日本調剤公式HPより）

医療用の薬は約17,000種類もあり、薬局にはいろんな処方せんが持ち込まれます。薬剤師は、患者さん一人ひとりに寄り添い、安心して薬を使ってもらうことを使命としています。そのためには、薬を扱うだけでなく、患者さんとのコミュニケーションがとても大切です。また、薬局や病院だけでなく、製薬会社、食品会社、行政機関などで活躍する薬剤師もいます。現代社会では医療のニーズが多様化しているため、薬剤師が必要とされる分野も広がっています。このような中で日本調剤では、日々進歩する薬や医療にしっかりと対応するためにさまざまな社内研修を行い、優秀な薬剤師を育てています。

キーワード

処方

医師が患者さんの病状に応じて、薬の調合や飲み方などを薬剤師に指示することをいい、
それが書かれた紙のことを「処方せん」といいます。

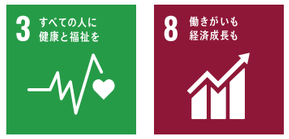
薬学

薬物を専門とする学問で、「薬剤師の養成」と「研究者の養成」という二つの側面があります。

社内研修

会社の中で行われる勉強や学びのことです。「薬剤師の社内研修」では、新しい薬の情報や安全に使うためのルールなどを学びます。

対象ゴール



みなさんにできること！

薬剤師の仕事について理解し、どのように人々の役に立っているのか考えてみましょう。

おさらい

- 薬剤師になるためには、専門の大学で6年間勉強して国家試験に合格する必要がある。
- 薬剤師には薬の知識だけでなく、患者さんとのコミュニケーション能力も必要。
- 薬剤師は薬局や病院だけでなく、食品会社や研究機関などでも活躍している。

メモ

SDGs ラジオ